

令和5年2月

第2回 湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議 発言要旨

【湯来地域において小中一貫教育校設置に先駆けて学校統合を行うことについて】

● 座長

今回、「参考資料」として配付しているが、水内地区町内会連合会、湯来東小学校PTA、湯来保育園保護者会が、それぞれの団体において意見交換等を行った際に出た意見等をまとめて、提出してくれている。

各団体のまとめにおいて、各団体で共通して出た意見として、「5つの小・中学校を1つに統合する前段階として、少規模化が進んでいる湯来東小学校と湯来西小学校を先駆けて統合することはできるのか教えてほしい。」といったものがあった。

この点に関して、教育委員会から回答することが可能であれば説明してほしい。

※ 教育委員会教育企画課長

この度の質問は、水内地区町内会連合会、湯来東小学校PTA、湯来保育園保護者会から出たものだが、湯来西小学校が関わる学校統廃合を想定した場合、先ほど説明した「資料1」にもあったとおり、湯来西小学校は敷地の一部が土砂災害特別警戒区域であることから、安全性の観点から考えると、湯来西小学校を統合先の候補とすることは現実的ではなく、湯来西小学校の児童は、別の場所に通学することになると思われる。

このため、質問のあった学校統廃合を検討しようとする場合には、その前提として、まずは、大きな影響を受けることになる湯来西小学校の保護者や地域の皆さんの合意を得ることが必要になるものと考えている。

○ 構成員

湯来西小学校の保護者や子どもたち、地域住民が統合を望んでいるのであれば、統合を進めていけるということによいか。

※ 教育委員会教育企画課長

湯来西小学校の保護者や地域の皆さんの合意について、何らかの形で確認できれば、行政としても統廃合を検討することができる。

手続きの方法に決まりはないが、学校統廃合は児童だけでなく、地域コミュニティなどにも影響を与える重要な問題なので、どこに統合するのかといったことも含めて、地域の皆さんでしっかりと協議をしていただき、一定の合意が得られた段階で、市の方に例えば、要望書のような形で提出していただくと、行政としても検討を進めやすい。

○ 構成員

湯来西小学校については、現在全校児童が8名で、学区の未就学児も非常に少ない。このままでは、数年後には全校児童が2~3人になり、その先には休校になることもあり得るという状況である。

我々、湯来西小学校の地域の者にとって、この設置検討会議において、5～6年先に開校することになる小中一貫教育校について議論することに、なかなか現実味を感じることができない部分がある。5～6年先の小中一貫教育校についての議論も重要だと思うが、湯来西小学校と湯来東小学校の小規模化が進行しているという現状の課題も掘り下げてほしい。子どもたちのためにより良い教育環境を確保することは、大人としての義務だと考えている。

同級生が数名しかいない湯来西小学校や湯来東小学校に通う子どもたちにとって、統合によって相対的に規模の大きな湯来南小学校（1学年20名程度）と急に一緒になるのは現実味を感じられないと思うので、まずは湯来西小学校と湯来東小学校が統合し、段階を踏んで大きな集団と一緒に（湯来南小学校と統合する）ことが望ましいのではないかと思う。

先ほどの回答では、統合について保護者や地域の合意形成ができて、市に要望書を提出すれば検討に入ることができるとのことだったが、合意形成についても、市にサポートしてもらえるとありがたい。

※ 教育委員会教育企画課長

この設置検討会議では、5つの学校を統合して1つの小中一貫教育校を設置するという大きな方向性の中で検討を進めている。

そうした中で、湯来西小学校と湯来東小学校を先行して統合することについて市として反対するものではないが、現状、統合について保護者や地域の合意が十分に得られているかどうか確認できない中で、市が主導して合意形成を得るために動いていくということが難しいという点は御理解いただきたい。

○ 構成員

いつまでに市に要望書を提出すれば、いつから湯来西小学校と湯来東小学校が統合できるのかといったスケジュール感について教えてほしい。

※ 教育委員会教育企画課長

過去の事例をもとにお答えすると、複式学級のカリキュラムの調整など、少なくとも丸1年間は準備期間が必要になる。準備のための予算を確保することを考えると、例えば、今年の夏ごろまでに、保護者・地域の合意形成を含め、予算要求できる程度に統廃合についての内容が固まっていれば、準備のための予算を要求し、令和6年度の1年間で準備し、令和7年4月に統合というスケジュールで進めていくことが一般的には考えられる。

【湯来地域に設置する小中一貫教育校における教育の内容について】

○ 構成員

現在の教育は、デジタル化や小学生からの英語科等、学習範囲が広すぎるように感じる。

一番大事なのは、日本語を話せる・理解できること、人の話を理解できること、自分の考えを人にはっきりと表現できることといった基礎的な学力だと思うため、そうした点を重視してほしい。

また、現在の教育は子ども自身に考えさせることを重視しているが、あまり小さな子どもにそれを求めるのは酷なように感じる。まずは、教えてもらったことを一生懸命覚えること、知識を取り込むことも重要だと思う。それから徐々に自分の考えを深めていき、その考えを他人に理解してもらえるように表現していく、といった段階を踏めるような授業をやってもらいたい。

○ 構成員

当団体の構成員に、どのような教育がよいか意見を聞いたところ、例えば、広島県の叡智学園のような進学校で行う教育よりは、これまでと同じような、一般的・基本的な教育を行ってほしいという意見が多かった。また、湯来地域の小・中学校では、現在も自然等の豊富な地域資源を生かした教育ができています。そのため、今の学校で行っているような教育が途切れなければ、「これぞ湯来地域の学校だ」と言えるような学校になるのではないかと思います。各小・中学校で学んでいることを小中一貫教育校になっても継続できれば、湯来地域の端から端まで学べるようになってよいのではないかと思います。

○ 構成員

どのような教育内容が望ましいのかを協議するに当たっては、設置検討会議のメンバーが「質の高い教育とは何か」という点について目線を合わせる必要があるのではないかと思います。その上で、目指す方向性の実現に向けて、他校の事例等を参考にしながら取組内容の比較検討を行ったり、地域としてどのような協力ができるのかを検討したりするなど、段階を踏みながら協議を進める方が、後戻りが少ないのではないかと思います。

○ 構成員

当設置検討会議では、湯来地域の活性化という視点も求められており、他の地域からも通学したいと思われるような学校を作っていかなければ、人口減少が進んでいくことが考えられる。そうした点から考えると、湯来地域の学校で現在行っている取組を残しながらも、分かりやすい、特色ある取組も必要なのではないかと思います。

(別紙「先進事例を知る上映会及び先進校への視察について」を配付)

そうした中で、教育についてメンバーの目線を合わせるという意味でも2つの提案をさせていただく。

1つ目として、先進的な取組を行う小学校が登場するドキュメンタリー映画の上映会を行いたいと考えている。自分も先日この映画を見たところだが、映画に登場する学校の取組が全て良いものとは限らないものの、取組事例の1つとして見てもらい、この映画の感想や、本日教育委員会から提供してもらった他都市の事例を含め、設置検討会議のメンバーや保護者等で意見交換ができればと考えている。

2つ目として、そうした意見交換の中で、実際に先進的な取組や子どもの様子を見てみたいとなった際に、そうした学校への視察を行いたいと考えている。費用もかかることなので、全員では行けないかもしれないが、現地で体感しなければ分からないことも多いため、重要なステップだと考えている。

まずは、上映会に協力できるという方がいればお願いしたい。また、教育委員会には、上映会への後援名義はいただけるのか、視察には同行してもらえるのか、同行できない場合は、視察先の学校に視察依頼はしてもらえるのかということをお願いしたい。

● 座長

視察については、予算のこともあり、行政に同行してもらうことは難しいかもしれない。上映会については、開催に向けて、提案者を中心に進めてみてはどうかと思うため、協力できる方はお願いしたい。

また、質問のあった点について、教育委員会から回答できるものがあればお願いしたい。

※ 教育委員会教育企画課長

まずは、お忙しい中、先進事例について積極的に情報収集していただき、感謝申し上げます。本件については、提案者から事前に情報提供いただいていたことから、現時点で確認できている範囲でお答えする。

まず、上映会への後援名義について、市や教育委員会の後援は要綱で基準が定められており、事業の詳細が分からない中、この場でできるかどうかはお答えできないが、実際に上映会を開催される際には、担当課に取り次ぐなど、協力させていただく。

次に、視察について、視察先の候補として挙げておられる常石とともに学園（福山市）に確認したところ、地域団体だけでの視察も受け入れているとのことだった。その他の県外の学校については確認していないが、設置検討会議として視察を計画される際には、先方の学校に取り次ぐなど、協力させていただくことは可能である。

視察に行政が同行できるかどうかという点については、公費による出張となるので、視察先候補として挙げておられる学校への視察に同行できるかどうか、この場でお答えすることは難しい。

○ 構成員

全国から児童生徒を集めるという発想について、遠方の学校に長時間かけて通学することは、中学生くらいになれば大丈夫だとは思いますが、小学校低学年の児童には難しいと思う。

○ 構成員

小学校低学年の児童が遠距離通学するのは難しいと思うのは同感であり、全国から児童生徒を集めるというのは、家族も含む、移住を伴うものを前提として考えている。

○ 構成員

移住は、親が稼げる環境、仕事がないと難しいと思う。全国から児童生徒を集めるというのは、プラスアルファの取組であって、当設置検討会議のメインの議題ではないのではないか。

○ 構成員

メインの議題であるかどうかは別として、そうした視点の取組がなければ人口減少が進んでいくのは事実であり、言われているとおり、稼げる環境づくりというのも同時並行で進めていく必要があると考えている。

そうした中で、当設置検討会議は、学校の在り方と併せて、湯来地域の活性化についても考えていく会だと捉えている。

● 座長

これまでの議論の中でも意見は出ていたが、湯来地域の人口・子どもの数はこの先も減少していくことが見込まれることから、小中一貫教育校の設置に当たっては、他の地域から人を呼ぶ視点も重要であると考えている。

例えば、本日の「資料3」の「別紙2」で挙げられている土佐山学舎は、開校前は57名だった児童生徒数が、7年後には143名にまで増加しており、どのような取組をされているのか詳しくは分からないが、数字だけを見ると、これはすごいと思う。

本日は、教育内容について意見交換することとしているが、実際には、専門的などところになると意見を出すことはなかなか難しいと思う。そうした中で、最終的に実現できるかどうかは

教育委員会で決めるようになるので、「このような取組をすれば湯来地域の子どものためになるのではないか」や「このような取組をすれば湯来地域が活性化するのではないか」、「このような取組をすれば他の地域から人を呼べるので子どもの数が減らないようになるのではないか」など、色々な発想で意見を聞かせてほしい。

○ 構成員

学んだことを、実社会に根差した活動に生かしていけるような取組ができればよいのではないかと考えている。

例えば、小・中学生が主導して、湯来地域の映画祭を開催するというのはどうだろうか。ドキュメンタリー映画の撮影から、上映する映画の選定、配給会社との交渉、集客、飲食の提供など、お金を得ながら、1つのイベントを成功させるために取り組んでいく。また、ドキュメンタリー映画を撮影する中で、地域の特色や課題を知っていくなど、1日の映画祭の中に、学びが凝縮しているような取組ができればよいと思う。上級生はプロデューサーや経理を担当するなど、学年段階に応じた役割を持たせることで学べることも多いと思う。映画づくりをする中で、本日の意見にもあった、聞く力、表現する力も育むことができるのではないかと。また、飲食ブースを運営する中で、地域の特産品を生かした商品づくりを行うということも考えられる。自分たちだけでは進めるのが難しいとなった際には、地域からの協力を得るために町内会長に相談に行ったりすることで学べることもある。

これまでの学校と地域の関わりにおいては、児童生徒が地域の方のお手伝いをするようなことが多かったと思うが、小・中学生が主導する映画祭を、地域の協力を得ながら成功させるという取組が、学校教育を通して実現できれば面白いと思う。

○ 構成員

自分自身も、教育に関する専門的な知識がなく、取組内容について、良いのかまたは悪いのかといった判断をすることは難しいため、先ほど提案のあった先進事例の上映会など、知識を付けるための機会には積極的に関わっていきたいと考えている。

また、「質の高い教育」とは何かという意見もあったが、子どもたちにとって、小中一貫教育校だけで人生が終わるわけではなく、卒業してからの生活の方が長い。社会に出て生き抜いていけるように育てることが理想だが、そのためにも、先ほど提案のあった小・中学生が主導する映画祭のように、一定のテーマを決めて子どもたちが自発的にチャレンジするのを、我々地域住民が応援するという取組がよいのではないかと。そうした取組を通じて、子どもたちだけでなく、地域も一緒に成長していけるのではないかと。思う。

○ 構成員

先日、戸山小中一貫教育校の視察に行ったところだが、同校の陸上部は伝統があり、大会でも好成績を残しているとのことだった。

湯来地域に設置する小中一貫教育校においても、戸山小中一貫教育校の陸上部のような特色が必要だと感じた。例えば、湯来東小学校で言うと、田楽に力を入れており、教員も熱心に指導してくれている。そうした、取組への教員の熱意等も含めて、新しく設置する小中一貫教育校で行う取組を検討してほしい。

【設置検討会議における議論の進め方について】

○ 構成員

教育委員会から、今年の9月頃までに一定の方向性が出れば、来年度以降、具体的な動きが進められるということが示されたが、現状の議論の進み具合から考えると、その期限に間に合わなくなるかもしれないと感じる。そうした中で、今年の9月を期限と決めて結論を出した方がよいのか、来年の9月を期限として、しっかりと議論を深めた方がよいのか、構成員の皆さんがどう思われているかを知りたい。

○ 構成員

少なくとも、湯来西小学校と湯来東小学校を統合するかどうかということについては、今年の9月までに結論を出した方がよいと思う。

○ 構成員

検討する時間があるに越したことはないが、期限が1年間延びたとしても、より良いアイデアが出ることも限らない。ひとまずは今年の9月を目標として、どうしても決まらなければ延期するという形がよいのではないか。

検討の進め方としては、全体スケジュールを示した上で、毎回の会議で、「今回はここまでを決める」ということをはっきりと示した方がよいと思う。

○ 構成員

結論を出す期限を決めておかなければ、ずるずると延びてしまうと思う。一方で、現状、意見を出し尽くしたとは言い切れない部分もあると思う。議論の手法として、グループに分けての協議というの也被えられるかもしれない。

● 座長

結論を出すまでの期限や議論の手法についても、各団体で意見交換していただいてもよいし、個人の考えでもよいので、どう思われるかを事務局に報告していただければと思う。

※ 教育委員会教育企画課長

今回のテーマは教育の内容ということで、なかなか意見が出しにくかったかもしれないが、皆さんから出していただいた意見については、整理した上で次回の会議でお示ししたい。

次回は、教育の内容に加えて、学校の地域コミュニティの核としての在り方について意見交換していただきたいと考えているが、その際には、他都市における事例を紹介するなど、意見を出していただきやすい進め方を考えたい。

(以上)